

登山と自然保護について

ハイキングクラブ四季 渡辺剛

ハイキングクラブ四季が、山の自然学クラブと共催で行事を行うのは今回で2回目になります。その時の参加の感想などを書いてほしいとの原稿依頼があり、正直言ってどんな内容にしようか、考えました。そこで上記のタイトルになったのですが、「自然保護」なんて言うのはおこがましい気持ちです。しかし、登山でお世話になっている、山や川、更に里山などに感謝の気持ちをこめて、このタイトルにしました。

登山で自然にどっぷりつかると、汗を流し水や食料を補給する。これは、人間（動物の一員）としては、体や精神に非常にいい影響をもらっています。マイナスイオンなんて難しいことは分かりませんが、気分は爽快、心はウキウキで、もう言うことはありません。更に体の新陳代謝も進み、さらさら血が体内を駆けめぐります。これを続けていると、いつまでも元気で生活できることは言うまでもありません。本当に自然さん有難うです。

しかし、問題もあります。当クラブでも大勢の人が参加して歩く。他の会の人でも沢山、山に来て登山を楽しんでいます。自然をありのまま、維持するには多すぎるほどです。しかし、これを止めることは難しいことです。登山道は固まり、そこからは草木は生えてきません。

登山道だけならまだいいのですが、高山植物を求めて登山道から外れる人もいます。

また、尿尿の問題も大きくなっています。自然の力で処理できる限界を超えるようになりつつあります。山に住む虫なども人が入るのはいい迷惑です。他の動物にとっても同じことと思います。

とって、中村先生がやっているような、自然復旧大作戦のような、大それたことは、なかなかできません。たまにお手伝いして、自然を壊したらその復旧にこんなにかかるということを理解する程度です。お叱りを受けそうですが。

しかし、荒れた富士山の中腹にみずならのドングリを植えたとか、桂の苗を植えるなど、今まで体験したことないことができたことは、いい経験でした。中村先生や高尾の森を復元している河西さん達など、本当に頭が下がる思いです。

私なんかもやはり、自然をありのままに受け入れようという気持ちで、登山をしています。まずは登山道から外れない、花の写真を撮る時もズームで行うとか。また、虫などもやっかいものですが、テントでは香取線香をたきますが、歩いていて虫に刺されるのは大変なので、防虫シートで顔をぬぐい、虫に向かってスプレーを吹き付けることはしません。また、動物には餌をやらない。食べ残しは持ち帰る。その前に山で出たゴミは持ち帰る。トイレ問題は、もちろんトイレがあればそこで、なければ自然に戻すよう、ティッシュは使わず、トイレトペーパーを持って行っています。といったように、ちょっとした気遣いでできることを行っています。

このちょっとした心遣いが、自然をありのまま残す、残すなんてのはおこがましい。自然の力で残る。――そんな気持ちで登山を続ける今日です。